



い たて ひょう ず じん じゃ 射 楯 兵 主 神 社

兵庫県姫路市鎮座。延喜式内社で、射楯大神と兵主大神（大己貴命）を主祭神としてお祀りしています。欽明天皇25年（564）6月11日に影向があり、飾磨郡伊和里水尾山に、大己貴命を祀ると伝えられています。安徳天皇養和元年（1181）に、播磨国内の大小明神百七十四座の神々を合わせ祀って「播磨国総社」と称し、三日潮「播磨国総鎮守の神社」として広く知られるようになりました。特殊祭礼として、60年に一度斎行される一ツ山大祭、20年に一度斎行される三ツ山大祭があります。

※提供元「射楯兵主神社」



くにたまの会会報

【第12号】

発行／くにたまの会
島根県出雲市大社町杵築東195
出雲大社社務所内
TEL：0853-53-3100



ご挨拶

くにたまの会総裁
出雲大社宮司

千家尊祐

会員の皆様には、それぞれの奉務神社におきまして、御神徳の宣揚と啓発にご尽力されていることと存じます。日本全国に広がる大國主大神様の信仰の輪の拡がりは、ひとえに皆様方の日頃のご奉仕の賜物であり、先ずもって深く感謝申し上げます。

畏くも天皇皇后両陛下におかれましては、愈々日々御麗しく御公務に御精励あそばされておられますこと、洵に慶賀の至りに存じます。

さて、私事ではありますが、先般アキレス腱を痛めたために療養中でございました、この度の総会に出席できませんでしたことを深くお詫び申し上げます。併せまして、多くの方々より励ましとお見舞いのお言葉を頂戴いたしましたことに厚く御礼申し上げます。

本年は終戦八十年、そして昭和百年という大きな節目の年でございます。この平和な時代が、先人たちのご尽力や苦難の上に築かれていることに思いを致し、大御代の益々の弥栄を祈念申し上げ、御皇室の尊厳維持に一層努めて参りたいと存じます。近年の度重なる自然災害により、能登地方をはじめ多くの地域が被災

しております。被災された皆様からのお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興を祈念いたします。

本会では、私たちが奉斎する大國主大神様の御神徳を広めながらそれぞれの地域の絆を結び、その信仰と文化を継承してさらに豊かなものとしていくために理解を深め合い、と切に願うものでございます。特に、近年の社会情勢の変化に伴う多様性の中で、日々の暮らしの核としての伝統的な神道信仰をしっかりと伝えていくために、これからの活動におきまして、皆様との連携を密にし、共に信仰の輪を広げていきたいと心より願っております。

今後とも、信仰を通して御神徳の宣揚と啓発に力を合わせ、共に精進していくことを念じ上げますとともに、皆様の温かいお力添えをお願い申し上げます。

末筆ながら、聖上の安泰長久、皇室並びに我が国の弥栄、会員の皆様方の奉務神社の益々のご隆昌をご祈念申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

令和七年度 くにたまの会総会

於・島根県 出雲大社

去る令和七年九月四日、出雲大社にて「くにたまの会」総会が開催されました。会員神社五十五社から、およそ九十名の会員が出席いたしました。



神楽殿向拝にて参加者一同での記念写真

その後、正式参拝では猿渡昌盛副理事長（大國魂神社宮司）と中麿輝美副理事長（日光二荒山神社宮司）に併せ参加者全員が拝礼、その後、

神楽殿向拝下にて記念写真を撮影しました。



出雲大社本殿正式参拝の様子

総会は、永友謙二理事（都農神社宮司）による開会の辞の後、神宮並びに奉務神社遥拝、国歌斉唱、この一年間に帰幽された会員のご冥福を祈り黙祷を捧げました。

続いて、開催神社を代表して千家和比古権宮司からの代読の挨拶では、大國主大神様への感謝と、信仰・文化継承への決意、そして豪雨による被災地の復興を祈念される等のお言葉がありました。また、来賓として

お越しいただいた諏訪神社連合会・諏訪大社宮司 村上益弘様のご名代諏訪大社禰宜 守屋久様より、大國主大神様のご神徳を仰ぐこと、祭りの継承と共同体の絆を深めることの重要性と、困難を乗り越え、神道の精神の蘇りと歴史・文化を未来へつなぐことを祈念するとの総会開催にあたってのご挨拶をいただきました。



来賓によるご祝辞の様子

また本総会に対して、全国東照宮

連合会会長 稲葉久雄様、全国賀茂社連合理事長 高井俊光様、全国八幡宮連合総本部長 田中恆清様、全国稲荷会会長 舟橋雅美様、全国春日連合会総裁 花山院弘匡様、全国熊野会会長 上野顕様、全国天満宮梅風会名誉会長 西高辻信良様・会長橋重十九様より頂戴した御祝状並



藤井議長による議事進行

びに祝電を御披露し、藤井秀嗣理事（高瀬神社宮司）を議長として議事に入り、事務局より令和六年度事業報告及び予算決算報告、令和七年度の事業計画及び予算案、役員の改選について提示・審議いただき、全ての議案に対し承認をいただきました。

永友謙二理事（都農神社宮司）による閉会の辞により、総会は滞りなく終了しました。

総会後、福岡県立大学 岡本雅享教授により「出雲を源郷とする人たち」と題した講演が行われました。今回、限られた時間でありましたが、北陸、信州、北関東へと至る交流ルートに焦点を当てたお話を中心にさせていただきました。参加者は熱心に耳を傾けました。

岡本先生は、出雲の文化や信仰がどのようにして日本各地に広がっていったのかを、歴史的・地理的な観点から丁寧な解説してくださいました。講演の中では、各地域の地名や伝承、祭り、そして出雲系神社の存在が具体的な証拠として挙げられました。これらの痕跡から、出雲を源郷とする人々が古代よりこのルートを介して交流を深め、それぞれの地域に根ざした文化を築いていった様子が鮮やかに浮かび上がりました。



岡本先生による講演会

また、能登半島地震で甚大な被害を受けた須須神社奥宮等の復興に向けたお声がけもあり、先生からは復興への強い想いが語られました。今回の講演会は、私たちが住む地域の歴史や文化が、出雲と深く結びついていることを再認識する貴重な機会となりました。

◎懇親会盛大かつ和やかに

総会・講演会後、会場を出雲ロイヤルホテルへ移し、猿渡副理事長の開会挨拶により懇親会が開催されました。



猿渡副理事長の懇親会開会挨拶

懇親会では中麿副理事長の発声による乾杯の後、普段顔を合わす機会の少ない会員同士が互いに親睦や交流を深め合い、終始和やかな笑い声に包まれました。

◎次年度開催地は兵庫県

また、懇親会にて、令和八年くにたまの会総会の開催地について、兵庫県支部長 西本和俊様より、ご挨拶を頂戴いたしました。



中麿副理事長の懇親会開乾杯

◎玉作湯神社にて研修会

総会翌日の九月五日、同会会員の玉造湯神社 遠藤孝男宮司のご奉仕により、研修会を開催いたしました。



玉作湯神社正式参拝の様子

当日は秋晴れのもと、参加者およそ三十名で玉作湯神社を正式参拝し、玉造りの文化や歴史について学びました。

厳かな雰囲気の中、神社の歴史と玉造りの文化について遠藤宮司よりお話を伺い、理解を深めました。

参拝後、玉湯町周辺を散策し、古代から続く温泉地の歴史や文化に触れることが出来ました。

今回の研修会は、玉造の歴史や文化に触れる貴重な機会となり、参加者同士の情報交換や新たな気づきに繋がったことと思います。

ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。



研修会参加者一同での記念写真

東京都支部総会

於・駒繫神社

去る令和七年七月十六日、東京都世田谷区下馬鎮座の駒繫神社において、くにたまの会東京支部（清水祥彦支部長）総会が開催された。

午後三時より正式参拝を行い、引き続き社務所にて総会を実施。出席者二十二名のもと、

清水支部長を議長に選任し、令和六年度事業報告・収支決算報告、令和七年度事業計画案・収支予算案について審議が行われ、いずれも満場一致で承認された。

総会後には研修事業として講演会が催され、国士舘大学教授 藤森馨先生が「平安時代の天皇と貴族、そして伊勢神宮」と題し講話を行った。

その後、懇親会会場のスカイキャロット



参加者との記念写真

オークラレストランへ移動し、くにたまの会本部副理事長であり当会顧問の大國魂神社 猿渡昌盛宮司の挨拶と乾杯により、和やかな交流のひとときを過ごし、盛会のうちに終了した。

兵庫県支部総会

於・射楯兵主神社総社会館

去る令和七年六月十三日、くにたまの会兵庫支部役員会・総会が兵庫県姫路市総社本町鎮座 射楯兵主神社総社会館に於いて、厳肅かつ和やかな雰囲気の中、開催されました。

総会に先立ち、午後三時から役員会が開催され、西本和俊支部長（射楯兵主神社宮司）以下、役員六名が出席されました。その後、午後四時から総会では、十一名が出席され、くにたまの会本部より千家尊祐総裁のご名代として、出雲大社欄宜平岡邦彦様にご出席いただきました。

盛田賢孝副支部長（夜比良神社宮司）による開会の辞で始まり、次に、



西本支部長の挨拶

神宮並びに奉務神社遥拝・国歌斉唱と続き、西本支部長より、会員相互の交流・連携を推し進め、更なる支部発展に期待する旨の挨拶がなされました。

続く来賓挨拶では、くにたまの会千家尊祐総裁より頂戴致しました御祝状を、平岡欄宜様の代読によりご披露申し上げました。



出雲大社 平岡欄宜による挨拶

その後、会則により西本支部長を議長に選出し、議事に移りました。令和六年度事業報告では、役員会・総会・懇親会の開催他、小松守道理事本務神社、高砂神社への正式参拝並びに巡拝会の報告がなされました。



懇親会乾杯の様子

次に、令和六年度会計決算を行い、会計より決算報告が行われ、引き続き監事より監査報告が行われました。令和七年度事業計画では、十一月二十六日に巡拝会を計画し、吉井良英理事（西宮神社権宮司）本務神社西宮神社を正式参拝する事となりました。

次に、令和七年度会計予算（案）では、事業計画に做った予算であり、特別積立金を計上する旨の説明がありました。

終わりに、別所敬介副支部長（湯泉神社宮司）が閉会の辞を行い、総会を終えました。

引き続き、同会場にて懇親会が行われ、吉井理事の乾杯の発声により、祝杯を高らかに上げました。本部からのご来賓をお迎えしての懇親会は、終始和やかな雰囲気、会員相互の親交を深めることができました。



石原道夫支部長の挨拶

去る令和七年三月二十六日、くにたまの会島根県支部総会が島根県神社庁を会場として開催されました。午後一時三十分からの総会は、合計十七名の出席となりました。

総会は、石原道夫支部長（稲田神社 宮司）の開会の辞より始まりました。

石原支部長（稲田神社宮司）の挨拶に続いて、石原支部長を議長として議事に入りました。

島根県支部総会

於・島根県神社庁



議事進行の様子

令和五年度並びに令和六年度事業報告に続いて、令和六年度会計決算の報告を行いました。

令和七年度事業計画（案）・令和七年度会計予算（案）では、令和七年度くにたまの会総会は、三年に一度の島根県「出雲大社」での開催であることを説明し、島根県支部会員神社の多くの参加を呼び掛けると共に、開催にあたっての協力をお願いしました。



島根県神社庁庁舎前にて参加者一同での記念写真

又、石原支部長よりからは、島根県支部会員神社も増えたこともあり、島根県支部総会も島根県内巡拝に併せて開催を検討する発言がありました。

次に、事務局より、島根県支部会員の募集と、くにたまの会ホームページの活用等について説明がなされました。

総会後に、島根県神社庁庁舎前にて記念写真を撮影して解散となりました。

会員増加の動向と

今後の方針

新たにご加入いただいた会員神社は左記の七社でございます。

- ・岩手県 六神石神社宮司 千葉 雄孝氏
- ・静岡県 今宮神社宮司 泉明寺みずほ氏
- ・新潟県 牛尾神社宮司 佐山眞理子氏
- ・埼玉県 北向神社宮司 岡本 一雄氏
- ・静岡県 城岡神社宮司 植松 英生氏
- ・愛媛県 一之宮神社 越智美香子氏
- ・山形県 稻尾神社宮司 宮野 直生氏

現在の会員神社は新規加入神社を含め三二〇社となりましたが、まだ会員の少ない県があるようです。

事務局としても引き続き奉斎神社を調査し、ご入会の勧誘を行ってまいります。各会員神社の皆様におかれましては勧誘のお声がけをお願いいたします。

ご入会をご検討の神社には入会案内資料をお届けいたしますので、事務局までご連絡をお願いいたします。

くにたまの会事務局

宮司就任・退任

- 青森県 岩木山神社宮司就任 須藤 典子氏
- 青森県 岩木山神社宮司退任 須藤 茂忠氏
- 奈良県 大和神社宮司就任 西口 学氏
- 奈良県 大和神社宮司退任 塩谷 睦男氏
- 新潟県 青梅神社宮司就任 古川 修氏
- 北海道 札幌祖霊神社宮司就任 上田 祐之氏
- 栃木県 札幌祖霊神社宮司退任 小林 宣彦氏
- 栃木県 太平山神社宮司就任 小林 一成氏
- 山形県 出羽三山神社名譽宮司就任 宮野 直生氏
- 兵庫県 柏原八幡宮宮司就任 千種 太陽氏
- 兵庫県 柏原八幡宮宮司退任・名譽宮司就任 千種 正裕氏

「くにたまの会」会員神職帰幽

- 鳥取県 大神山神社名譽宮司 相見 行佳氏
- 北海道 札幌祖霊神社宮司 上田 進氏
- 島根県 三澤神社名譽宮司 陶山 親敏氏
- 福島県 温泉神社宮司 佐波古直己氏
- 島根県 氷川神社名譽宮司 秦 武男氏
- 島根県 來次神社名譽宮司 松岡 美昭氏
- 島根県 金屋子神社名譽宮司 安部 正哉氏
- 新潟県 青梅神社宮司 古川 洸氏

右の方々のご帰幽を悼み、謹んで追悼の意を表します。

※慶弔につきお知らせになられた際は、お手数ですが、事務局までお知らせいただけますよう、皆様のご協力を願います。

「くにたまの会」

広報活動について

くにたまの会ホームページの内容や会報の充実を図るため、会員神社の情報提供をお願いいたします。

就きましては、会員神社で行われる遷座祭・式年祭・特殊神事・地域の伝統行事・身近な出来事等どんな事でも結構でございますので、ホームページや会報を通じて発信を希望される情報等がございましたら掲載させていただきますので、事務局までお問い合わせをお願いいたします。

送り先

〒六九九一〇七〇一

島根県出雲市大社町杵築東一九五

出雲大社社務所内

「くにたまの会事務局」まで

電話 〇八五二一五二一三二〇〇

メール johoh@izumooyashiro.or.jp

※写真を添えてお寄せ下さい。